

## 環境・気候変動問題への対処

気候変動は、水資源、健康、食料安全保障への影響、および気候変動が引き起こす自然災害をつうじてアフリカ開発に重大かつ直接的な脅威となっています。気候変動は、天然資源の確保・維持とその持続可能な利用に悪影響を及ぼします。また気候変動は、これまでのアフリカにおける数十年に及ぶ社会経済開発の努力を無駄にしてしまうおそれもあります。

環境・気候変動問題への対応を間違えれば、ミレニアム開発目標（MDGs）を達成しようとする国際社会の努力が損なわれ、「人間の安全保障」にも深刻な影響をもたらします。優先させるべき行動には、気候変動の影響を軽減するための緩和策および適応策、適切な技術を用いた再生可能・代替エネルギーの開発が含まれます。

2007年3月にナイロビで開催されたTICAD閣僚会議は、持続可能な開発のための環境とエネルギーをテーマとし、エネルギー・アクセスおよび環境保護における成功事例を分析し、将来に向けた最善の政策の組み合わせを検討することで、アフリカ諸国、援助諸国、その他国際機関の協力を強化する方策を練ることを目的とするものでした。その際、アフリカのエネルギーおよび環境に対する開発努力として、次の3分野が特定されました：（a）地方および中央政府のイニシアティブに代表されるオーナーシップの構築、（b）地域レベルの協力の推進、（c）民間セクターの先進技術を最大限に活用した官民連携を含むパートナーシップの強化。

### 環境およびエネルギー・イニシアティブ

エネルギーおよび環境分野におけるアフリカ開発に対し、日本政府は具体的支援を提供しています。

#### オーナーシップの構築に対する援助：

マリのセゲー地方における砂漠化防止策の調査；ケニアの半乾燥地における農林業強化に向けた技術協力；ギニアの沿岸地方における給水計画に対する無償資金協力；エジプトの紅海沿岸ザファラーナ地区における風力発電計画プロジェクトの建設。

#### 地域協力の推進に対する支援：

エチオピアにおける地下水開発・水供給訓練計画；ケニア、ウガンダ、タンザニア3カ国の合弁事業AICAD（African Institute for Capacity Development）における大学15校が参加した技術協力プログラム；アフリカの貧困削減のためのエネルギー支援（ブルキナファソ、ガーナ、ギニア、セネガルにおけるディーゼル発電を利用した多機能プラットフォーム）。



## 国際的枠組み：クールアース50

喫緊の課題である気候変動問題に対処するため、2012年に終了する京都議定書の約束期間後にも効力をもつ国際的枠組みが必要とされています。このため、日本政府は2007年に、世界全体の温室効果ガス（GHG）を2050年までに半減することを求める「クールアース50」イニシアティブを提案するとともに、以下のポスト京都フレームワークの3原則を提唱しています。

- ・地球規模での排出量削減に向けた主要排出国のすべての参加
- ・柔軟かつ多様性のある枠組み
- ・環境保全と経済発展との両立

さらに、2008年1月にダボスで開催された世界経済フォーラムにおいて、福田総理は「クールアース推進構想」を発表し、この構想を実現に導く手段として以下の3点を提案しました。(1)ポスト京都フレームワーク：日本は、他の主要排出国とともに国別総量規制を掲げて取り組む。この目標設定にあたっては、今後活用される技術を基礎として削減可能量を積み上げるボトム・アップ・アプローチが取られるべきであり、削減負担の公平性が確保されるべきである。(2)国際環境協力：日本政府は、世界全体で2020年までに30%のエネルギー効率改善を達成することを世界の共通目標として提案し、この達成に向けた途上国の緩和・適応の取組みを支援する100億ドル規模の新たな資金メカニズム、「クールアース・パートナーシップ」を構築する。(3)イノベーション：日本は、革新技术の開発と低炭素社会への転換に向けた取組みを進め、環境・エネルギー分野の研究開発投資に今後5年間で300億ドル程度の資金を投資する。

「クールアース推進構想」は、TICADプロセスの枠組みにおいてアフリカ諸国と協力し、重大な開発課題である環境・気候変動関連問題に立ち向かう重要な機会を提供しています。

